

科目名	演劇史4						年度	2025	
英語科目名	History of Drama and Theatre						学期	後期	
学科・学年	演劇スタッフ科 2年次	必/選	必	時間数	15	単位数	1	種別※	講義
担当教員	宮下明日香		教員の実務経験	有	実務経験の職種	演劇制作			
【科目の目的】 毎回資料を配布し、劇作家、作品の解説を行う。その後、その題材に即した映像を鑑賞し理解し、学術的に演劇を理解することにより、現場で必要とされる実践力へと結びつける									
【科目の概要】 新劇以降の日本の演劇、およびミュージカル史を考察する。学術的に演劇を理解することにより、現場で必要とされる実践力へと結びつける									
【到達目標】 日本の演劇では新劇以降の移り変わり、思想の変わり方を理解する。ミュージカルではブロードウェイとウェストエンド、フレンチ、オーストリアミュージカルの習得を目指す									
【授業の注意点】 授業内で扱う作品を事前に読んでおくことが望ましい 授業中の私語や受講態度には厳しく対応する 理由のない遅刻・欠席は認めない 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1				
	優れている	よい	ふつう	あと少し	要努力				
到達目標 A	古典から現代劇までの仕組みを正しく理解できる		演劇の仕事をする分には問題ない程度、仕組みを理解している			理解がおぼつかない			
到達目標 B	演技、演出、脚本がいかに関劇を構成しているか正しく理解できている		基本的な用語は理解できる			何が言いたいかわからない			
到達目標 C	演劇を鑑賞し、その意図するところ、歴史的な位置づけを理解できる		演劇を鑑賞し、おおまかな位置づけは理解できる			何が言いたいかわからない			
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】									

毎回授業にて資料配布を行う

【参考資料】

毎回授業にて資料配布を行う

【成績の評価方法・評価基準】

試験 80% 筆記試験により評価。 成果発表 10% ノート提出、授業内発表により評価。 平常点 10% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		演劇史4			年度	2025
英語表記		History of Drama and Theatre			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	新劇以外の日本芸能					
2	アングラ演劇					
3	小劇場					
4	小劇場②					
5	21世紀の日本の演劇					
6	21世紀の日本の演劇②					
7	2.5次元					
8	2.5次元②					
9	ミュージカル (ブロードウェイ)					
10	ミュージカル② (ブロードウェイ)					
11	ミュージカル③ (ウエストエンド)					
12	ミュージカル④ (ディズニー作)					

	品)						
13	ミュージカル⑤ (21世紀大ヒットミュージカル)						
14	ミュージカル⑥ (オーストリア)						
15	まとめ						

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考等